

令和元年度 決算

銚子市の わかりやすい 決算書



<http://www.city.choshi.chiba.jp/>

～ はじめに ～

本市では、決算の概要をわかりやすく解説した「銚子市のわかりやすい決算書」を発行しています。

本冊子は、難しい内容になりがちな決算について、見やすさを念頭において作成しました。

この『わかりやすい決算』を通して、市の財政に対して、皆様のご理解が深まるきっかけになれば幸いです。

※決算額は1円単位で報告するものですが、本書では見やすさを優先し、万円単位（万円未満四捨五入）で表示しています。

また、合計数を合わせるため端数の四捨五入の切り上げ、切り下げを調整している箇所があります。

目次

令和元年度一般会計の主な事業	1
決算の基礎知識	5
各会計の決算状況	6
一般会計決算の状況（歳入と歳出）	7
財政構造の弾力性と健全化判断比率	10
借金残高	12
貯金残高	13
普通会計決算の近隣市との比較	14

まずは、令和元年度決算における一般会計※の主な事業を紹介するちょ！

主な事業は、5つに分けられるちょ！！

- | | | |
|---|-------------|---------|
| 1 | 保健・医療・福祉の充実 | ・・・2ページ |
| 2 | 教育・文化の振興 | ・・・3ページ |
| 3 | 生活環境の整備 | ・・・3ページ |
| 4 | 産業の振興 | ・・・4ページ |
| 5 | 都市基盤の整備 | ・・・4ページ |

※一般会計とは、地方公共団体の行政運営の基本的な経費を網羅した会計のことを指します。(詳しくはP5参照)



銚子市公認キャラクター ちょーびー



令和元年度一般会計の主な事業



○○○○○○○○事業		
	担当課	○○○○課
	事業費	○○○万円
	財源	補助
借金		○○○万円
市		○○○万円
○○○○○○○○		

国や県、その他の機関からの補助金・交付金・負担金など

将来にわたって返済していくお金

市税や使用料、基金などの銚子市の自主財源

事業の概要



保健・医療・福祉の充実


病院事業会計負担、補助及び出資 (指定管理者交付金)			
	担当課	健康づくり課 (健康・地域医療推進室)	
	事業費	3億3,000万円	
	財源	補助	
		借金	
		市	3億3,000万円
銚子市立病院の医療従事者に対する人件費補てん交付金を補助しました。			

子ども医療費等給付			
	担当課	子育て支援課	
	事業費	1億4,926万円	
	財源	補助	4,049万円
		借金	
		市	1億 877万円
0歳から18歳までを対象とし、通院・調剤・入院に要する医療費を助成しました。			

子育てコンシェルジュ			
	担当課	健康づくり課 (保健事業室)	
	事業費	36万円	
	財源	補助	24万円
		借金	
		市	12万円
子育て世代に対し、コンシェルジュの相談支援等を実施しました。			

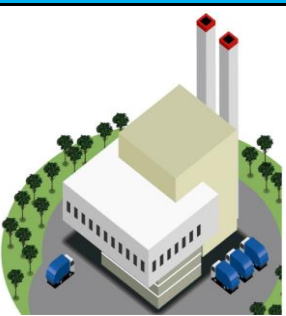



② 教育・文化の振興

銚子西中学校整備			
	担当課	学校教育課 (教育総務室)	
	事業費	1億1,254万円	
	財源	補助	5,423万円
		借金	5,600万円
市		231万円	
<p>令和3年4月の開校に向けて銚子西中学校を整備するため、管理・普通教室棟統合大規模改造工事を実施しました。(第五・第六・第七中学校を統合し、現在の第五中学校の位置に統合校として銚子西中学校を開校します。)</p>			

銚子さんまマラソン運営 (地方創生推進交付金事業)			
	担当課	社会教育課 (スポーツ振興室)	
	事業費	315万円	
	財源	補助	157万円
		借金	
市		158万円	
<p>銚子の自然・地形を活かし、地域のブランド向上、交流人口の増加を図るため、ジオパークにも認定された海岸線をコースとしたマラソン大会(第7回銚子さんまマラソン)の開催経費を負担しました。</p>			

③ 生活環境の整備

ごみ処理広域化施設整備			
	担当課	生活環境課	
	事業費	15億100万円	
	財源	補助	
		借金	2億4,000万円
市		12億6,100万円	
<p>東総地域3市で構成する東総地区広域市町村圏事務組合による広域ごみ処理施設の整備に対し、負担割合に応じた経費を負担しました。 ※市分のうち震災復興特別交付税として12億188万円が交付されています。</p>			

衛生センター基幹的整備改良			
	担当課	生活環境課	
	事業費	4億8,988万円	
	財源	補助	2億134万円
		借金	2億8,830万円
市		24万円	
<p>衛生センターの設備の長寿命化と二酸化炭素の排出量削減を図るため、老朽化した設備を処理量に応じた規模に縮小して更新しました。 (平成30年度から令和2年度までの継続事業)</p>			





産業の振興

灯台ワールドサミット

	担当課		観光商工課
	事業費		164万円
	財源	補助	
		借金	
市		164万円	

全国的に知名度の高い灯台を中心とした周辺の観光資源化を図るために開催した、「灯台ワールドサミット」の経費を負担しました。

水産物販路拡大

	担当課		水産課
	事業費		100万円
	財源	補助	
		借金	
市		100万円	

銚子漁港に水揚げされる魚をPRし、消費拡大へとつなげるため、「銚子港水産まつり」の事業費の一部を補助しました。

農産物の販路拡大、6次産業化

	担当課		農産課
	事業費		64万円
	財源	補助	
		借金	
市		64万円	

銚子で生産される農産物をPRし、消費拡大へとつなげるため、「銚子E農業まつり」の事業費の一部を補助しました。

広域営農団地農道整備事業費負担

	担当課		農産課
	事業費		5,157万円
	財源	補助	
		借金	5,090万円
市		67万円	

生産地と消費地を直結した生産流通の合理化を図るため、基幹農道整備事業の経費を負担しました。




都市基盤の整備

橋りょう長寿命化対策 (社会資本整備総合交付金事業)

	担当課		都市整備課 (土木室)
	事業費		3,629万円
	財源	補助	1,736万円
		借金	1,100万円
市		793万円	

長期的なコスト削減と道路交通安全性を確保するため、長寿命化修繕計画に基づき橋りょうを改修しました。

市営住宅改修 (長寿命化計画関連事業)

	担当課		都市整備課 (都市整備室)
	事業費		9,323万円
	財源	補助	3,898万円
		借金	5,340万円
市		85万円	

老朽化した市営住宅の安全性を確保し、耐久性や外観を向上させ長寿命化を図るため、長寿命化計画に基づき外壁や玄関ドアを改修しました。



決算の基礎知識



決算のあらまし



一般会計の歳入は前年度に比べ13億6,662万円増（5.9%増）の244億4,173万円となりました。これは東総地区広域市町村圏事務組合が主体となって進めている広域ごみ処理施設の建設が本格化したことなどにより、震災復興特別交付税が増加し、地方交付税が12億2,262万円増（25.0%増）したこと、衛生センター基幹的設備改良事業に係る国庫補助金が増加し、国・県支出金が前年度に比べ2億9,823万円増（7.8%増）したことが主な要因です。

次に歳出ですが、前年度に比べ11億376万円増（4.8%増）の239億6,941万円となりました。これは広域ごみ処理施設の建設に係る東総地区広域市町村圏事務組合への負担金が増加したことが主な要因です。

令和元年度の歳入歳出差引額は4億7,232万円の黒字となり、これから翌年度への繰越財源1億6,262万円を差し引いた実質収支額は3億970万円となりました。

これは、市民税の所得割や固定資産税の増加で、市税が当初予算よりも約1億円上振れしたこと、緊急財政対策（平成30年11月策定）の推進により事業費のムダ（ロス）を見直したことでなんとか黒字を確保できました。

家計でいうところの貯金にあたる財政調整基金の決算年度末残高は2億1,936万円であり、災害対応や新型コロナウイルス対策などの緊急時にスピード感をもって対応するためには、更なる確保が必要な状況です。

今後も、事務事業の見直しや市債の借入抑制による歳出の削減とともに、未収金対策や市有地の売却などの歳入確保を強化していく必要があります。

最後に特別会計と企業会計についてですが、特に国民健康保険事業特別会計において、歳入歳出差引額が7,480万円の歳入不足（赤字）となり、平成30年度決算に引き続き、不足額を翌年度の歳入で繰上充用しました。昨年度に比べ、歳入不足は縮減していますが、引き続き、保険料徴収強化、未収金対策及び医療費適正化（特定健康診査受診率向上、ジェネリック医薬品使用促進など）を行っていく必要があります。

「一般会計」は、福祉や教育などの基本的な行政サービスを行うための会計ちょ！

「特別会計」は、国民健康保険や介護保険など特定の事業を行うための会計ちょ！

「企業会計」は、地方公営企業法が適用される事業として区分され、水道事業と病院事業を行うための会計ちょ！

目的に応じて、いくつかの財布を持っているイメージだちょ。





各会計の決算状況



区分	一般会計	国民健康保険事業 特別会計	下水道事業 特別会計
歳入総額 ①	244億4,173万円	78億5,263万円	23億8,188万円
歳出総額 ②	239億6,941万円	79億2,743万円	21億3,518万円
歳入歳出差引額 ①-② ③	4億7,232万円	▲7,480万円	2億4,670万円
翌年度への 繰越財源 ④	1億6,262万円	—	11万円
実質収支額 ③-④	3億 970万円	▲7,480万円	2億4,659万円

区分	介護保険事業 特別会計	後期高齢者医療事業 特別会計
歳入総額 ①	62億 51万円	8億1,224万円
歳出総額 ②	61億2,445万円	8億1,170万円
歳入歳出差引額 ①-② ③	7,606万円	54万円
翌年度への 繰越財源 ④	—	—
実質収支額 ③-④	7,606万円	54万円

「翌年度への繰越財源」とは、年度内に完了することができずに、翌年度へ繰り越すこととなった事業に充てる財源であり、事業と同様に翌年度へ繰り越す必要があります。

「実質収支額」とは、その年度の歳入から、歳出と「翌年度への繰越財源」を差し引いたものです。この値がマイナスとなる状態を、一般的に『赤字』といいます。

令和元年度は、国民健康保険事業特別会計が、7,480万円の赤字になりました。



一般会計決算の状況（歳入と歳出）



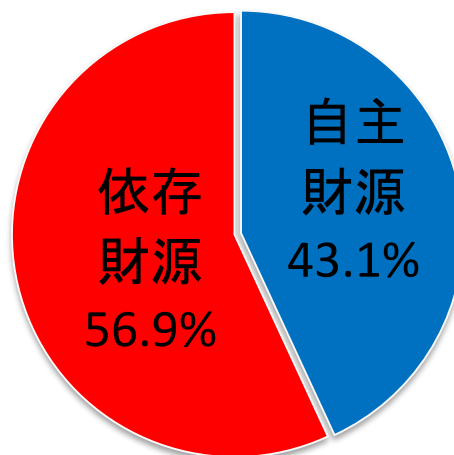
歳入決算状況

項目	説明	決算額	
		令和元年度	平成30年度
自主財源	市が自主的に集めることができる収入です。	105億2,887万円	106億8,387万円
市税	皆さんが銚子市に納めた税金です。	81億4,199万円	81億1,362万円
分担金及び負担金	事業に必要な経費の一部を受けるサービスの程度に応じて、利用者が負担するお金です。	1億6,653万円	2億3,099万円
使用料及び手数料	施設を利用する時や住民票などを発行する時にかかるお金です。	6億5,013万円	6億4,317万円
繰入金	各種基金（市の貯金）を取り崩して使うお金です。	2億8,285万円	2億6,774万円
その他	寄附金、土地や建物の売り払いなどの財産収入、諸収入、前年度からの繰越金です。	12億8,737万円	14億2,835万円
依存財源	国や県から交付される財源や市債（借金）のことです。	139億1,286万円	123億9,124万円
地方交付税	国に納められた税金の一部で、市の財政状況に応じて配分されるお金です。	61億1,636万円	48億9,374万円
国・県支出金	国や県に納められた税金の一部で、特定の事業を行うために市に配分されるお金です。	41億3,138万円	38億3,315万円
市債	学校や道路などの施設を整備するために、国や銀行から借り入れるお金です。	20億 718万円	20億1,838万円
その他	地方消費税交付金、地方譲与税、自動車取得税交付金等です。	16億5,794万円	16億4,597万円
計		244億4,173万円	230億7,511万円



自主財源が多いほど、財源に余裕ができるため、自主的な事業ができるちょ！！

令和元年度





歳出決算状況（目的別）

項目	説明	決算額	
		令和元年度	平成30年度
議会費	議会運営のための経費です。	1億8,886万円	2億 367万円
総務費	財産管理、統計、税の課税や徴収などの事務にかかる経費です。	28億1,052万円	28億5,591万円
民生費	障害者や高齢者に対する福祉の充実、子育て支援などの経費です。	79億2,366万円	80億9,651万円
衛生費	環境保全、疾病予防、健康増進などの経費です。	39億 794万円	24億 709万円
労働費	勤労者のための各種施設管理などにかかる経費です。	1,108万円	984万円
農林水産業費	農林水産業の振興、漁港整備などにかかる経費です。	4億5,690万円	4億4,602万円
商工費	商工業や観光の振興などの経費です。	4億1,904万円	4億 46万円
土木費	道路や河川、公園などの社会資本整備のための経費です。	14億1,969万円	15億 421万円
消防費	消防や火災予防などの災害対策のための経費です。	9億7,700万円	11億7,202万円
教育費	学校教育、生涯学習、スポーツ振興などの事業に要する経費です。	27億6,038万円	27億4,350万円
災害復旧費	大雨、地震などの災害により被災した施設を復旧するための経費です。	7,288万円	3,284万円
公債費	市債の元金、利子や一時借入金の利子のことです。	30億2,146万円	29億9,357万円
計		239億6,941万円	228億6,564万円



経費を行政目的ごとに分類したものの
じょ！



銚子ジオパークPR大使
ジオっちょ



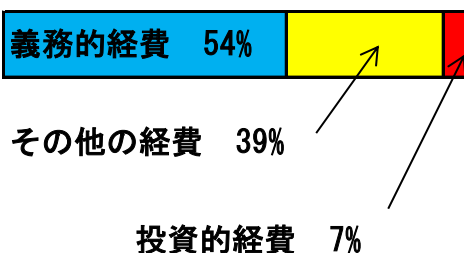
歳出決算状況（性質別）

項目	説明	決算額	
		令和元年度	平成30年度
義務的経費	毎年必ず支出しなければならない経費です。	129億 660万円	130億8,877万円
人件費	職員の給料などに要する経費です。	55億2,956万円	56億6,594万円
扶助費	生活保護費、障害者支援費などの福祉や医療に要する経費です。	43億5,558万円	44億2,926万円
公債費	借金の返済などに要する経費です。	30億2,146万円	29億9,357万円
投資的経費	道路、学校などの建設や大規模改修など施設等の整備に要する経費です。	17億3,540万円	16億4,156万円
普通建設事業費（補助）	普通建設事業のうち国からの補助があるものです。	9億2,218万円	5億5,634万円
普通建設事業費（単独）	普通建設事業のうち国からの補助がないものです。	7億3,862万円	10億5,040万円
災害復旧事業費	大雨、地震などの災害により被災した施設を復旧するための経費です。	7,460万円	3,482万円
その他の経費		93億2,741万円	81億3,531万円
物件費	光熱水費、消耗品費、通信運搬費、委託料などです。	28億5,144万円	28億4,154万円
維持補修費	施設の維持補修に要する経費です。	1億 111万円	1億1,105万円
補助費等	一部事務組合に対する負担金などです。	25億7,135万円	11億2,078万円
積立金	各種基金（貯金・運用資金）への積立金です。	1億4,686万円	1億9,581万円
投資・出資金	病院事業会計等に対する出資金です。	2,703万円	977万円
貸付金	市が一時的に貸し出す経費です。	2億9,476万円	4億6,500万円
繰出金	特別会計の収入を補うための経費です。	33億3,486万円	33億9,136万円
計		239億6,941万円	228億6,564万円



必ず支出しなければならない義務的経費が54%もあるじょ！

令和元年度決算





財政構造の弾力性と健全化判断比率



財政構造の弾力性を表す経常収支比率は95.2%です。

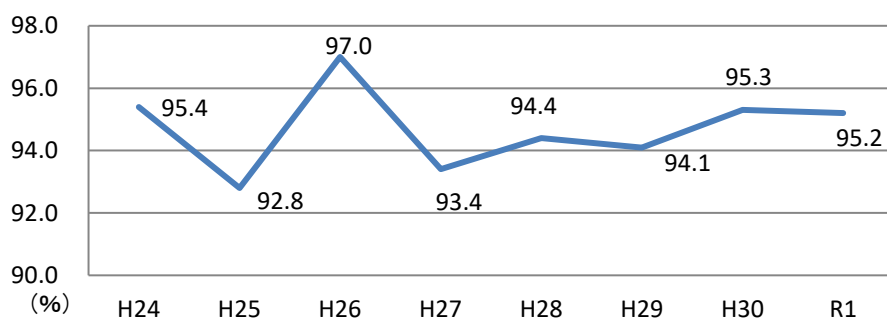


経常収支比率とは、人件費、扶助費、公債費等のように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源[※]が、一般財源総額のうち地方税、普通交付税のように毎年度経常的に収入される一般財源に対し、どの程度の割合となっているかをみることにより、財政構造の弾力性を判断するもので、低ければ低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示しています。

※その用途が特定されていない財源（地方税、地方交付税など）のこと。使い道が決まってる財源（国庫支出金、地方債など）は特定財源という。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{人件費、扶助費、公債費等に充当した一般財源}}{\text{経常一般財源等(地方税+普通交付税等)+減収補てん債特例分+臨時財政対策債}} \times 100$$

経常収支比率の推移



令和元年度は、前年度の95.3%から95.2%と若干改善しました。

主な要因は、経常的収入である臨時財政対策債が減少したものの、それ以上に経常的支出である、人件費（対前年度比1億3,638万円減）や扶助費（対前年度比7,368万円減）に係る費用が減少したことが挙げられます。

健全化判断比率って？



『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』（平成19年6月22日公布）により、市は財政の健全度を判断するために設けられた健全化判断比率の算定と公表が義務付けられています。

詳細は次のページに記載されていますが、市の健全度を判断するためには、4つの比率が用いられており、一定の基準を超えたときには、財政運営の健全化を図るための計画策定が必要となります。



健全化判断比率及び資金不足比率について



実質赤字比率

一般会計等の赤字が、通常見込まれる収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。



連結実質赤字比率

全ての会計における赤字が、通常見込まれる収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。



実質公債費比率

一般会計等がその年に負担すべき借金の返済額が、通常見込まれる収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。



将来負担比率

一般会計等が将来にわたって負担を求められる負債の額が、通常見込まれる収入に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。

健全化判断比率の状況	令和元年度決算	平成30年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	-	12.82%	20.00%
連結実質赤字比率	-	-	17.82%	30.00%
実質公債費比率	13.2%	13.3%	25.00%	35.00%
将来負担比率	137.0%	146.5%	350.00%	基準なし

※ 早期健全化基準と財政再生基準は、令和元年度の数値です。

健全化判断比率の他市比較	年度	銚子市	旭市	匝瑳市	香取市
実質赤字比率	令和元年度	-	-	-	-
	平成30年度	-	-	-	-
連結実質赤字比率	令和元年度	-	-	-	-
	平成30年度	-	-	-	-
実質公債費比率	令和元年度	13.2%	7.9%	5.7%	8.1%
	平成30年度	13.3%	8.2%	5.7%	8.1%
将来負担比率	令和元年度	137.0%	-	21.2%	52.2%
	平成30年度	146.5%	-	20.0%	63.7%

※ 令和元年度の指標数値は、決算カードの速報値となります。

令和元年度決算の指標は、左上の表「健全化判断比率の状況」のとおりとなりますが、同じく左下の表「健全化判断比率の他市比較」をみると、近隣の市よりも指標数値が非常に高いことがわかります。

その要因としては、特に市の貯金(=基金)が少ないことが影響していると考えられます。

指標数値がさらに悪化すると…



イエローカード

健全化判断比率の4つの指標のうち1つでも、『早期健全化基準』を超えるとイエローカード状態となります。

早期健全化基準を超えると、議会の議決が必要な財政計画を策定する必要が生じ、市主導で事業を行うことが難しくなります。



レッドカード

健全化判断比率の4つの指標のうち1つでも、『財政再生基準』を超えるとレッドカード状態となります。

財政再生基準を超えると、議会の議決が必要な財政計画を策定する必要が生じることはもちろんのこと、市の主導で事業を行うことはほぼできなくなり、国(総務省)主導で財政運営を行わなければならないようになります。



資金不足比率

各公営企業会計において、資金不足額がその事業規模に対してどの程度の割合となっているかを示すものです。

資金不足比率の状況	令和元年度決算	平成30年度決算	経営健全化基準
水道事業会計	-	-	20.00%
病院事業会計	-	-	20.00%
下水道事業特別会計	-	-	20.00%

※ 経営健全化基準は、令和元年度の数値です。

借金残高

一般会計借金残高(市債現在高)見込み

項目	令和元年度末	平成30年度末	項目	令和元年度末	平成30年度末
普通債	146億 554万円	151億7,629万円	その他	123億7,212万円	126億1,655万円
総務	24億3,511万円	28億5,259万円	減税補てん債	1億7,703万円	2億3,410万円
民生	1億1,090万円	1億2,100万円	臨時税収補てん債	0万円	0万円
衛生	17億1,537万円	12億9,363万円	臨時財政対策債	119億3,229万円	120億7,703万円
農林水産	11億6,180万円	11億3,585万円	退職手当債	1億9,273万円	2億2,486万円
商工	2,830万円	3,420万円	減収補てん債	7,007万円	8,056万円
土木	24億9,930万円	27億9,445万円	計	269億8,241万円	277億9,987万円
住宅	1億7,006万円	1億3,487万円	市民1人当たり	447,269円	450,682円
消防	17億9,038万円	18億4,165万円			
教育	46億9,432万円	49億6,805万円			
災害復旧債	475万円	703万円			
農林水産	0万円	0万円			
土木	475万円	703万円			
教育	0万円	0万円			
その他	0万円	0万円			

借金の残高は、近年減ってきていますが、今後も必要な事業をしっかりと見極めて、借金の抑制に努めていきます。

- ☆ 近隣市の令和元年度末借金残高
 ※令和元年度決算カード(普通会計)より
- 銚子市 269億8,587万円
(市民1人当たり 447,327円)
 - 旭市 323億4,634万円
(市民1人当たり 495,312円)
 - 匝瑳市 161億 796万円
(市民1人当たり 445,944円)
 - 香取市 428億 171万円
(市民1人当たり 566,625円)

※市民1人当たりの金額は、令和2年1月1日現在の各市の人口から算出しています。

学校や道路などの大きな施設の整備には一時的に何千万円、何億円といった多額のお金が必要になります。そのお金を1年間の予算でまかなってしまうと、他の事業ができなくなってしまいます。

また、学校や道路などの大きな施設は現在の市民だけでなく、将来30年から40年もの長い間、たくさんの方が利用する施設ですので、将来の市民の方にも平等に負担していただくことも、市債を活用する理由の一つです。

世代間の負担の公平を図る上で市債発行の意義はもちろんありますが、前ページのとおり、近隣市と比較すると、健全化判断比率が非常に高い状況のため、ただ市債を漫然と発行するのではなく、市債を発行する事業の選択と交付税措置のない市債の発行抑制に努めていきます。

普通会計とは、他団体と比較するときに用いられる会計です。総務省の定める一律の基準で各地方公共団体間の財政比較が可能になるようにしています。

貯金残高

貯金残高（基金現在高）見込み

基金名	令和元年度末残高	平成30年度末残高
財政調整基金	2億1,936万円	2億1,433万円
災害救助基金	1億1,299万円	1億1,449万円
国民健康保険事業財政調整基金	0万円	0万円
一般廃棄物処理施設整備基金	1,924万円	7,834万円
豊里住宅団地公共施設整備等基金	3億7,665万円	3億8,656万円
減債基金	96万円	96万円
ふれあい福祉基金	2,664万円	3,571万円
介護保険事業財政調整基金	4億3,737万円	3億4,823万円
地域再生基金	2,400万円	2,763万円
がんばれ銚子ふるさと応援基金	5,371万円	1,951万円
公共施設整備等基金	101万円	101万円
民力復興基金	600万円	600万円
銚子電気鉄道応援基金	4,316万円	3,169万円
一般廃棄物最終処分場設置地域振興基金	64万円	47万円
銚子市漁業振興基金	1,000万円	1,000万円
銚子市森林環境基金（令和元年度新設）	135万円	
計	13億3,308万円	12億7,493万円
市民1人当たりの財政調整基金現在高	3,636円	3,475円

基金とは市の貯金にあたるもので、予算不足に充てるための「財政調整基金」と使い道が決まっている「特定目的基金」に分けられ、その残高を表しています。

以下の表のとおり、近隣の市と比較すると、銚子市の財政調整基金がいかに少ないかがわかれると思います。今後は、財政調整基金の現在高を適正な額[※]に維持していかなければなりません。

※銚子市の財政規模であれば、15億円程度の現在高があると望ましい。

☆近隣市の財政調整基金現在高（令和元年度末）

（市民1人当たりは、令和2年1月1日現在の人口で算出）

※ 令和元年度決算カードより

○旭市	95億7,949万円	（市民1人当たり 146,688円）
○匝瑳市	27億4,862万円	（市民1人当たり 76,095円）
○香取市	61億6,142万円	（市民1人当たり 81,567円）



普通会計決算の近隣市との比較



市民1人当たりの歳入決算額



項目	銚子市	旭市	匝瑳市	香取市
自主財源	174,370円	188,043円	161,819円	183,955円
市税	134,964円	117,722円	109,365円	119,743円
分担金及び負担金	1,706円	1,468円	2,633円	1,650円
使用料及び手数料	12,361円	9,244円	2,906円	4,632円
繰入金	4,689円	10,293円	22,502円	31,863円
その他	20,650円	49,316円	24,413円	26,067円
依存財源	231,322円	341,959円	301,433円	266,231円
地方交付税	101,387円	157,235円	151,683円	118,150円
国・県支出金	69,172円	73,321円	83,046円	78,564円
市債	33,280円	82,092円	37,396円	39,029円
その他	27,483円	29,311円	29,308円	30,488円
計	405,692円	530,002円	463,252円	450,186円



市民1人当たりの目的別歳出決算額



項目	銚子市	旭市	匝瑳市	香取市
議会費	3,129円	3,020円	4,935円	3,009円
総務費	43,701円	52,635円	49,494円	49,104円
民生費	132,611円	135,136円	143,022円	143,364円
衛生費	65,892円	121,396円	65,882円	43,039円
労働費	184円	27円	0円	128円
農林水産業費	7,576円	11,602円	15,887円	17,448円
商工費	6,951円	5,445円	5,587円	9,503円
土木費	24,531円	31,732円	19,812円	34,901円
消防費	16,199円	18,212円	20,706円	20,389円
教育費	45,761円	62,541円	59,269円	43,068円
災害復旧費	1,237円	1,139円	4,861円	3,350円
公債費	50,090円	48,504円	46,210円	45,500円
計	397,862円	491,389円	435,665円	412,803円



市民1人当たりの性質別歳出決算額



項目	銚子市	旭市	匝瑳市	香取市
義務的経費	213,950円	205,739円	202,309円	190,048円
人件費	91,660円	77,765円	71,089円	62,998円
扶助費	72,200円	79,470円	85,010円	81,550円
公債費	50,090円	48,504円	46,210円	45,500円
投資的経費	28,792円	69,059円	50,171円	44,851円
普通建設事業費(補助)	15,286円	23,213円	17,975円	26,991円
普通建設事業費(単独)	8,814円	42,804円	23,032円	12,546円
県営事業負担金	3,455円	1,903円	4,303円	1,964円
災害復旧事業費	1,237円	1,139円	4,861円	3,350円
その他の経費	155,120円	216,591円	183,185円	177,904円
物件費	47,577円	54,138円	48,794円	49,769円
維持補修費	1,676円	1,484円	5,677円	2,409円
補助費等	42,625円	75,347円	83,087円	63,471円
積立金	2,434円	8,332円	1,369円	3,274円
投資・出資金、貸付金	5,334円	37,612円	5,286円	9,813円
繰出金	55,474円	39,678円	38,972円	49,168円
計	397,862円	491,389円	435,665円	412,803円

本市は、他市と比較すると、人件費が多く、補助費等が少ないことが大きな特徴となっています。これは、市立高校を有しているため、教育関係の職員数が多いことやごみ処理業務、消防業務などを直営で行っているため、一部事務組合に対する負担金が少ないことが要因といえます。
 なお、ごみ処理業務は、東総地区広域市町村圏事務組合が主体となり、令和3年度から広域ごみ処理施設（銚子市・旭市・匝瑳市）が稼働する予定です。

またもう1つの特徴として、公債費が他市と比較すると多いということです。これは、千葉科学大学建設費助成事業や市立高校整備など大規模な事業が平成16年度以降続いたため、その償還が毎年あります。大規模事業の中には、償還が終了したものもありますが、千葉科学大学建設費助成事業の償還が終了する令和7年頃までは、比較的高い水準で推移していく見込みです。



令和元年度決算
銚子市のわかりやすい決算書

■発行年月日 令和2年10月

■発行・編集 銚子市・企画財政課財政室

〒288-8601 銚子市若宮町1番地の1

電話 0479-24-8926

Fax 0479-25-4044

■銚子市ホームページ

<http://www.city.choshi.chiba.jp/>
